

ひ換ゆれば多少病的であるものが尠くないからです。二つには、假令それが病的でないにしても、果して、どの位の程度迄ずん／＼伸してよいものか、それが問題になります。教育は其の人の全生涯を對象として考へて居るものです。或る短い時期だけの成功を目あてとして居るものではありませぬ。健康々々と思つても、いゝなり放逸に食物を興へて居れば、胃擴張になつたり、胃弱になつたり、一生使ふべき胃が中年で役に立たなくなつたりすることがあります。胃と頭腦とは同じにはいへませんが、『勢力の節制』といふことが、有機體の正しい生活に必要なことは、如何なる方面でも同じ理屈です。使はずに居れば矢張り駄目になるが、使ひ過ぎれば、往々にして其の力の生命が短くなる。これは随分六かしい程度ものですけれども、餘りに優秀な子供に對しては、後の方の危険をつい犯しはしまいかと、氣になるものです。先頃亞米利加邊に天才教育論といふものが大に唱へられたことがあつて、専門家の間にも多少注意せられました。殊に世間の好奇心に訴へて、山雀の藝當でも見るやうに、はやし立てられたことがあります。けれど私達は、教育上の正しい基礎知識のない人々に、たゞ此の珍らしい試みだけを言ひはやすのを、頗る危ないことに思ふのです。興へ度くて興へ度くて、教へ度くて教へたくて、賢くしたくて賢くしたくて、伸したくて伸したくてならないのが教師の心です。われ／＼は之を正當に調整する方のことを、最心して學び度いのです。此の優秀な二人の子供に就て、どの位細心な警戒と思慮を拂つておいでになるかといふことは、御報告の上によくお察

し出來ます。殊に本屋さんの子供の方は、文字などを知る機會も多いいことですから、多少普通とは違ひますが、本を手に入れることの機會の六かしかつた子供が、却つて好學心を強められ、後に大學者になつた例もあります。こゝは大に家庭にも注意する必要があります。

殊に心配なのは、出來のいゝ子は、いつかしら事を易しく見物をあなどるといふ風な不眞面目な、不熱心な性癖を得ることです。個性の向ふ處をも伸ばしてやる必要がありますが、それは後のことのでいでせう。寧ろ彼の缺けて居る點——殊に幼兒として缺けて居ると見える點——に向つて、其の子の努力をさせることも必要でせう。遊戯を獎勵され無邪氣を旨とし、又大人遊びを避けて居らるゝ御注意は至極く要を得て居ると思ひます。嗚呼六かしいのは優秀兒の教育です。

〇いろいろの子供

名古屋市立第一幼稚園保母 坪内キク

私の園に現在居ります幼児の中で、多少特別と見えますものを申し上げます。此の他にも、細かに見れば一人々々特徴を有つて居りますが、中には著しい様に思はれますものだけ申し上げます。

一、女兒、滿六年、在園二年八ヶ月。

入園當時は何事もせず、口もきかず、獨り妄然と立つて居たりして、何事も保母のして呉れるのを待つて居る許りで、自らは少しも手を下すことを致しません。保母が、御自分でなさいと申しますと、そろ／＼手を出して何かしらしますけれど、することに纏りはつきません。又一體にもこの理解力も少なく、感じも鈍く、泣きもせず笑ひもせずといふ有様で、全く痴愚と申す状態でありました。

保育上の注意としましては、何事も成るべく保母の手を借らず、遅くとも自分でする様に勧め、又戶外遊戯の時は、保母が主となつて引出し、或は他の幼児に、つとめて連れになつて遊ばせる様にしました。しかし、初めの中は、元來自發性に欠けて居るのですから、此の引立て策にも應せず一寸は應じても直ぐ止めて仕舞ひますので、中々六かしいので御坐りましたが、一年程たちますと少しは自分から遊び度い様子をあらはし、こちら

から問をかければ、少しづつ答へる様になりました。そこで折さへあれば話しかけたり、問ひを出したりして、ものを言ふ機會を多く與へ、又遊戯などには優良兒の中へ加へて、中心になつて遊ばせる様にしました。斯うして、一言に申せば、つとめて自發的生活の機會を與へました處、近來では、餘程自ら自分の力を知つたといふ有様で、遊びの面白さも知り、言葉も多少はき／＼し、時々笑ひ顔をする様になりました。

一、女兒、滿六年七ヶ月、在園一年八ヶ月

これは大層我儘な、所謂主我性とも申す子どもで、入園當時はお辭儀もせず、無口で他の幼兒を人形か何かの様に、全く自分の自由にしようとし嫌はれる時は之を打たゞき、ひねり、甚しきはひつかいたりします。又非常に嫉妬深くて、他の幼兒が保母に何かして貰つて居たり、手をつないで居たりしますと、さも口惜しげな様子で眺め、又は其の兒にあたつたりして、嫉妬の狀、まるで半

狂人の様なことがあります。又他の幼児の衣類などの美醜を氣にして批評し、これによつて交遊を左右し、また自らも衣類を飾り、様子をつくつたりして、動作態度妙に大人びた處がありました。

此の矯正には殊の他困難いたしましたのですが、先づ格別に親切に取扱ひ、嫉妬心を起させぬ様にし、嫉妬心を起した時には他に氣をかへる様な話をし、或は無邪氣な兒と遊ばせ、いはゞ氣のまぎ

れる様につとめました。又我儘は一切とり上げられぬもの、人をたゝいたりすれば嫌はれものになり、お友達もなくなるといふ様なことを分らせる様つとめまして、近頃は多少矯正せられた様にも思はれますが、今でも、他の幼児が自分の思ふ様にならないと、恐ろしい險のある目で恨めしげににらんだり告口したりすることがあつて困ります

一、男兒、滿六年二ヶ月、在園一ヶ年。

甚だ優秀の子供、理性に勝ち、氣象も強く、殊に負憎み強く、何事にも自分一流の巧みな理屈を

つけ、手技など致しても、それゝ感心する様なうまい理屈や説明を附けます。何でも人にして貰ふことが大きらひ、力の及ばぬことでも、自分でしようとしています。但し、賢いだけに、ものがさきへゝと氣にかゝり、幾分神經過敏といふ處もありて、少しのことを氣にして泣く癖があります。自治心も忍耐力も強いのですから何事も理を説いて聞かせれば、よく分るので御坐います。

一、男兒、滿五年二ヶ月、在園一年八ヶ月。

他のことは普通の發達で別に變りもないのですが、幾分大人らしい處あり、殊に特殊な點は非常に誇大的とか虚榮的とか申す癖のあることです。

何事も知つた振をし、金錢玩具その他ものに就ても何でも他より餘計有つて居る様に言へばよいといふ風に考へて居ると見えます。それは大きなことを申します。自分に問はれない事にまで、さきになつて口を出したりして、保姆などにえらく思はれよう、ほめられようとする風が甚し

いので御坐います。之れに對しては、時によりま
すと、それは間違つて居ませうといふ風に、ハッ
キリ否定して誇張心の頭を抑へることもあります
し、又時によつては、聴かざるまねをして他へそ
らして仕舞つたりすることもします。一般として
はそういふ誇大なことなどいふ機會のない様に注
意して居りますが、一々の場合、どう取扱つたが
正しいのか随分六かしいので困ります。

以上、簡単な説明で、子供の性質も充分盡すこ
とも出来ませんが、御推讀下さいまして、何かと
御教示を願ひます。

學問の上で兒童の型を幾種かに分けたりしますが、實際上の
一人々々は、その型通りのものなどはありません。皆或る一
點に於て特殊性を帯びて居るのが多いのです。此の御觀察が
實によく一人々々の特殊性を捉へて、それに向つての明かな
理解をもつて居られる處は敬服にたえません。

滿六才の自發性の少ない女兒童を、兎に角く遊びの面白さを
知らせ、時々なり笑ひ顔をする様に迄引立てられるには、ど
の位の御苦心がありませう。普通に育て難い子供といへば自
發性のあり過ぎる、抑へられない子供の方が多いのですが、

教育上骨の折れ方からいへば、自發性のない子供位、六かし
いものがありますまい。しかし、どんな子供でも、生きてあ
る限り全然捨てたものはありません。そして親切な細心な方
法で、其の自發性を少しづつ、少しづつ引出してゆく處にあ
る、教育の愉快は、どんなに大きいものでせう。それにし
ても、斯ういふ種類の幼兒を見て、普通幼兒の自發性なるもの
が、如何に教育上貴重のものかと思はずには居られません。
次の女兒の嫉妬心は、之れは又どんなに教育しにくいもの
でせう。子供のすることは、どんなことでも見方によつて、
必ず何等かの愛らしさを持つものです。いたづらでも、我ま
までも、困るなりに子供らしい面白さもあります。ところが
嫉妬深い子だけは、餘程、こちらの愛心が深く包容が大き
くないと、可愛げがなくなるものです。子供らしくないことの
最甚だしいものだからです。しかし、考へて見れば、可愛想
なものです。何とかして早く矯正してやらなければ、いつ迄
も人に愛されないで、益々嫉妬癖を加へて來ます。そして、
一番大切なこととしては、周囲の空氣を出来るだけ明るい、
快活な、打あげた、さつぱりした氣分を以て充滿させ、嫉妬
なんぞを起しても、頓と氣のつかない様に、すら／＼と取扱
つてゆくことでせう。虚榮心や誇大癖の矯正の方は、所謂相
手にならず、とりあげないで打ち捨て、置くと共に、時には
正面から之を訂正して矯してやることがい、様ですが、嫉妬
心は決して、とり上げてはいけない様です。元來虚榮心や、
誇大癖は比較的單純な心理状態ですが、嫉妬は極めて複雑な
病的なものです。そして、悪くすると、自分は嫉妬深いもの

だと知ることによつて、益嫉妬深くなる様な妙な結果を生ずるものです。青年近くなつて、自ら自分を内省し、自分の心の病氣のある處をよく知り得る様になつてからなら兎に角、幼児期に於ては、正面から之を矯さうとすることは六つかしいでせう。其の點に於て、他にまぎらせたり、成るべく無邪氣な子と遊ばせるといふ御實験は、至極く有益な御實験だと思ふのです。

○剛情で共同心の乏しき子

東京市坂本小學校
附屬幼稚園保姆 和田 くら

私はいつも數多き幼な子の仲間入をして日々楽しく月日を送つて居ります。此等の仲間の中には特に智能の優れて居るのもあれば、之に反して劣つて居るのもあり、又一種異なる性癖を供へて居るものもあります。茲に申上りますのは、此最後に記しました異常兒の取扱上につき、少しく感じました事の一ふしを申上げて、愛讀諸姉の御批評を願ひたいと存じます。

問題となる子供は唯今六歳、最早三三ヶ月にし

て小學校に入る豫定でございます。扱此兒は満四歳にして入園致しましたが、其當時他兒と異なる所は剛情なる上に、共同心に乏しきこと、即ち友と遊ぶを好まぬこと、談話を聞くのも嫌ふこと、衆兒沈黙の場合之を破りて興がること、入りては絶えず動搖して止まず、出でゝは危険なる遊のみを好み、制せんとすれば大聲を發して逃れ、其他故意に悪戯をなし誠しめらるゝ時は、一種奇なる顔付をなし他事に紛らさんと何事をか語り始めます。

先づ當兒につき注意した事は柔順の徳を養はしむる事で、最初はなかく困難でしたが、命ずる事を極々少なくし一旦命じたる時は必らず之を實行なさしめ、守りたる曉にはほめてやる様にして見ました。又悪戯をなした時は命令的でなく勸告的に注意する様にして見ましたが、遂には之を守る様になりました。時には手に合はぬ事があつて、叱責することもあります、斯る場合には必らず